



都立南大沢学園通信

～情熱・誠実・実践～

東京都立南大沢学園
校長 井上 美保
令和5年11月1日発行
11月号

学びを止めない・ICTによる主体的な学び

校長 井上 美保

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、学校教育においてもICTの活用が急速に進んできました。本校では、東京都教育委員会の事業である「一人1台端末を活用した指導内容・方法」について研究指定を受け、職業に関する教科(コース)の授業を中心に、効果的な活用を進めてきました。各学級では、日課帳による一日の振り返りを Teams 内で行ったり、授業の中では、教員が生徒に配布した課題を生徒が Teams で提出したりするなど、様々な場面でのICT活用が進んでいます。

私自身も、目まぐるしく変化する日常業務を滞りなく終わらせるために、これまでも便利に使用してきたアナログ手帳とスマートホンの機能を併用し、計画的にスケジュールをこなせるよう工夫しています。情報化社会の進展により、ICTの活用が急激に進む中、生徒たちが在学中に、少しでも多くの情報活用能力を身に付け、生活の中で使用できるよう指導を継続していきたいと考えています。

生徒の理解状況や能力、適性により、使いやすい方法やスタイルは一人ひとり違うけれど、自分にとって最適な活用方法を自分の力で見つけられるよう、活動の場を一層増やしていきたいと思っています。

さて、本校では、今年度、全てのホームルーム教室に液晶テレビを設置し、ICT環境による学びの場の整備に努めてきました。各教室では、いつでもデジタル端末をスクリーンに投影し、教材として活用するなど、「南大沢UD」による生徒のための分かりやすい授業の実施に努めています。加えて、オンライン学習デーを2日間設定し、生徒は自宅に居ながらにしてオンラインによる授業を受けることができました。大災害等を想定し、教員は学校や自宅など複数の離れた場所から授業を配信しました。日頃の学習の成果もあってか、初の取り組みにも関わらず、スムーズに進めることができました。

今後も、様々な事情により、教室で授業ができない場合があったとしてもICT環境を最大限に活用し、学びを止めない教育活動を展開できるよう実践を積み重ねていきたいと思っています。さらに、生徒主体によるICTの活用が、卒業後も生徒と就職先である会社をつなぐ支援のツールとなれば、コミュニケーションも広がり生徒自身も充実した生活が送れるようになると思っています。

本校は、これからもICT環境を整備するとともに、ICTを効果的に活用した主体的な学びの実現に向け、さらなる努力をしてみたいと思います。



オンライン学習デーで教室から授業を配信している様子

ICT機器の活用

主幹教諭 平岡 誠一郎

一人1台端末が導入されて2年目となります。本年度は1年生、2年生の生徒全員がタブレット端末を使った授業に取り組んでいます。近年、飲食店や小売店でタブレット端末を活用した店舗をよく見かけます。今後、様々なICT機器の活用が増えていくことが予想されます。そこで、本校では卒業後を見据え、情報の時間はパソコンでの授業、その他の授業ではタブレット端末を用いた授業を展開しています。3年生はまだ、一人1台端末が導入されていないことから、東京都から配備された100台のタブレット端末を用いて授業を進めています。一人1台端末が導入された2年目を振り返ると、生徒の学ぶ環境も大きく変化しました。ライフスキルの時間では、これまで、ワークシートを用いた学習が中心でしたが、Teams内に共有したワークシートに生徒それぞれが自由に書き込みをして意見を出し合ったり、Formsを用いたアンケートから瞬時に結果を共有できる環境に変化したりしています。

これまで、ワークシート上で何度も消しゴムで消しては書いていたものが、瞬時に書き換えられるようになりました。また、自分の言葉で表現することが苦手だった生徒も、タブレット端末を通して、自分の気持ちを表現できる場面が増えてきています。

一人1台端末を用いて2年目となる2年生の生徒は、職業に関する授業(コース)の中でタブレット端末を使う機会が増えてきました。2年生福祉コースの授業では、絵コンテから物語の作成をすべてタブレット端末で行い、読み聞かせツールとして制作に励んでいます。どの作品もオリジナリティーに溢れ、気持ちが穏やかになる作品ばかりです。自分で作った作品に思い入れもあり、物語の読み方も相手に伝わるような工夫もされています。物語の背景がその言葉からにじみ出て、その場にいるような雰囲気の商品に仕上がりました。

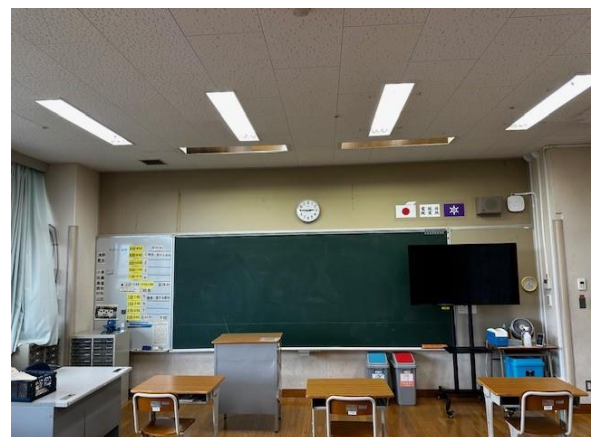
また、ロジスティクスコースではOneDriveを用いたデータの保存方法について学んでいます。

ロジスティクスコースでは、印刷が必要な業務ではパソコンを主流に作業を進めています。写真データやOCRを使った作業ではタブレット端末が力を発揮しています。手で書かれたアンケートなどの編集にはこれまで、書いた文字を見ながら入力をしていましたが、最近では、そのアンケートを写真で撮影して文字の部分の長押しすることで、デジタルデータとして保存することができるようになりました。漢字の読み方が分からない場合も、そのデータをコピーしてWeb検索で調べればすぐに分かり、業務の効率化にも繋がっています。マニュアル作成においては、写真データをクラウドに保存してパソコンからそのデータをダウンロードして使ったり、様々な場面で活用したりしています。初めは苦手だった生徒もクラウド環境を理解して、即座にデータのやり取りができるようになっていきます。

これからの時代、ICT機器を使った「南大沢UD」による分かりやすい授業を積極的に進めていきます。



高2福祉コース 読み聞かせ



液晶テレビを設置した教室環境

※今年度から学園通信は、UDフォント(ユニバーサルフォント…読みやすい、判別しやすい書体)を使用しています。